

栗東市地域福祉計画委員会（平成29年度・第1回） 議事概要

日時	平成29年6月30日（金） 午後1時30分～午後2時45分
場所	コミュニティセンター治田東 大会議室
出席者	<p>【委員】 岡野英一（学識経験者）、村田智美（学識経験者）、黒田元吾（社会福祉協議会）、青地 勲（社会福祉協議会）、千代妙子（特別養護老人ホーム淡海荘）、宮城安雄（なかよし福祉会）、横山真弓（グランマの家保育園）、樋上雅一（草津・栗東医師会）、北川 聡（校長会）、池田久代（ボランティア関係者）、上田紀子（女性団体連絡協議会）、高畑きぬ江（心身障害児（者）連合会）、山口克巳（自治連合会）、清水久輝（草津・栗東地区労働者福祉協議会）、金城ゆみ子（同和対策促進連絡協議会）、北村一子（公募委員）、田中啓久（公募委員）</p> <p>【栗東市】 太田 功（福祉部長）、太田聡史（社会福祉課長）、的場紀雄、田邊みのり（社会福祉課）</p> <p>【関係者】 山中忍恵、中沢有紀、本間由樹（社会福祉協議会） 平川理恵（株）ジャパンインターナショナル総合研究所</p>
欠席委員	中村末雄（民生委員児童委員協議会連合会）、吉仲幸子（老人クラブ連合会） 清水 憲（自治連合会）
傍聴者数	0名
協議事項	（1）新委員の委嘱について （2）地域福祉に関わる本市の状況について （3）市民アンケート調査の結果について （4）その他

1. 開 会

2. 市民憲章唱和

3. 委員長あいさつ

4. 会議成立の確認・傍聴者なしの旨、報告

議 事

（1）新委員の委嘱について

<事務局より説明>

<自己紹介>

（2）地域福祉に関わる本市の状況について

<事務局より資料に基づき説明>

(3) 市民アンケート調査の結果について

＜事務局より資料に基づき説明＞

＜市民アンケート調査結果について学識経験者からのコメント＞

(委員長)

日本の福祉は、この5年で大きく変わってきました。もちろん、栗東市にも関わってくることです。

2025年というのが福祉、特に高齢者福祉では大きなポイント。団塊の世代がすべて75歳以上、後期高齢者となる年です。5年前の計画策定時でもわかっていたことですが、現実感があまりありませんでした。計画改定にあたっては、2025年を迎えるための地域福祉計画が求められます。

栗東市は人口が増加傾向にあり、中学校の生徒数も増えています。2025年に向けてパワーが発揮できる仕組みが必要です。

また、福祉については近年、包括的ということが言われるようになりました。障がい者福祉、高齢者福祉すべてにわたって同様です。その点が、現行計画策定からの5年間で変わってきたことです。

5年前と比べると、若い世代をつなげるコーディネート力が求められます。本日お集まりの方々は、地域でさまざまな活動をしてくださっていますが、その中で出てきた課題や地域の困りごとについても、コーディネーションする力が必要となります。既存の力を活用しながら仕組みを考えることが大事です。

現行計画にもコーディネーションは書かれていたと思いますが、この5年間でCSW（コミュニティソーシャルワーカー）の配置はどうなっているか、今後、重要になってくると思います。

地域福祉計画を進めていく上で、ほかには予防的機能ということが大事になってきます。後期高齢者になると認知症の発生確率は4倍になると言われています。

アンケート調査結果で、70歳以上で「すべてに関心がない」という割合が高い。70歳以上の人が地域とつながれるように日ごろからの取り組みが必要です。75歳以上の人が増える2025年に向けて、アプローチ、仕掛けが重要だと思います。

近年、ボランティアセンターの登録者数が目覚ましく増えていますが、ボランティアの登録者数が増えているのはなぜでしょうか。

(事務局)

ボランティアセンターの運営形態が変わったことが挙げられます。24、25年度は社団法人として運営されており、ボランティア登録する際に出資金が必要でした。26年度から社協が運営されるようになり、登録の負担がなくなったことが理由です。

(委員長)

ボランティアの方も新たに増えたのでしょうか。

(社 協)

以前、社協に登録していただいていた方が、また戻ってきてくださったということです。

(委 員)

以前はボランティア登録をするのに、1人につき1,000円が必要でした。ボランティアをしてもらうのに、団体に登録するのに、みんなから1,000円を集めるのは難しかったです。

(委員長)

市民がボランティアしてもらいやすい、その受け皿が必要ですね。ボランティアの活動拠点はどのようになっていますか。ボランティアセンターのスペースは広いところがあるのですか。

(委員)

ボランティアセンターはそんなに広くはありませんが、そこを拠点にして地域の公民館で活動しています。

(委員長)

私からのコメントはそのくらいにして、委員の皆さままでお気づきのことなどございますか。

(委員)

文科省の調査で「地域の活動に参加していますか」という質問項目があり、前任校では参加が高かった。子どもが参加していると、保護者も一緒に参加することにつながっていたと思います。

(委員長)

子どもが動くと、周りの大人も動くということがありますね。私も大津市の石山でこども食堂の運営に学生と参加していますが、栗東市ではどうでしょうか。

(社 協)

社協が実施主体となっているのは治田西小学校区です。孤食にスポットをあて、誰でも来てよいというスタンスで夕方に実施しており、平均80名ほどが参加しています。

小平井、北尾団地、コミセン治田、縷のウイングプラザでも立ち上がり、栗東市内で5カ所、こども食堂が立ち上がっています。

(委員長)

子どもの貧困は減ったとされますが、孤食、孤立を防ぐということでも意味があると思います。子どもたちをサポートできる仕組みづくりができれば良いですね。

アンケートで、孤独だと回答する方は活躍できる場があれば力を発揮してくれます。子ども、高齢者も分けず、そこでいろんな方が活躍できる場があれば良いと思います。

(委員長)

医師会の先生は、医師の立場で何か感じることはありますか。

(委員)

高齢者世帯が増えてきたのを感じます。元気なうちは良いですが、夫婦のどちらかが弱ってくると大変になると感じますね。

(委員長)

私事ですが、父親が髄膜炎になり後遺症もあります。介護が必要になると、気力がなくなったのを感じます。幸いにも近所の人を訪ねてくれるので、そうすると元気になる。人とのつながりが元気につながる。つながりをつくる必要があると感じます。

(副委員長)

2025年も、人ごとではないと思います。

(委員)

今年3月に退職するまで行政職をしてきましたが、昔から子どもを産むなら栗東市でといわれるほど、福祉が手厚かった。アンケート結果をまとめるにあたり、アンケート結果の分析とともに、2期計画の評価、3期計画に向けた課題を盛り込むべきだったのでは。それと、一般市民にも見やすいものにしてもらえばよかった。また、地域に対する不満、公共機関への不満が出てきています。私は金勝地域ですが、コミュニティバスも減っています。利用人口が減っているのが理由だそうですが、金勝は車がないと動けません。年をとると家族に運転を止められ、免許証をとりあげられる。そうすると、外出ができずに家に閉じこもりがちになってしまう。バスが減れば出かけられない。こうしたことを、どのようにとらえられているのか、どのように反映されるのか、見えるようにしてもらいたい。

(委員長)

次回8月の委員会では骨子案が出てきますね。2期計画から3期につながる視点、検証や展望を盛り込んでもらえると思いますし、お願いしたいと思います。

市民に向けては、計画書や概要版の中に見やすいアンケート結果を載せていただく必要があると思います。地域ですること、行政の計画では住み分けが難しいと思いますが、今回は活動計画も一緒に作っていくということなので、具現化する活動計画によって、積極的な地域福祉の推進につながると思われます。

今回は、みなさんからご意見をいただける仕組みを考えていきたい。

(4) その他

(事務局)

回りの2回目、その次の3回目では計画の策定に向けて、各団体を代表する委員の皆さまから、ご意見をいただきたいと思う。

回りの開催は8月下旬で調整させていただきたい。

閉 会

副委員長、閉会あいさつ